



NO. 172

響音 (ひびき)

発行 チャイルドライン ハートコール・えひめ
〒790-0808 松山市若草町 8-3
松山市ボランティアセンター気付
Tel 089-923-9558 Fax 089-916-9710
E-mail heart-call@kke.biglobe.ne.jp
<http://www7b.biglobe.ne.jp/~heart-call/>
発行責任者 染川まどか
発行者 染川まどか
編集者 三好久恵

第21期受け手ボランティア養成講座終了しました

昨年は開催できなかった受け手養成講座、今年は無事終了しました。
こんな状況禍の中、それでも9名の方が受講してくださり、5名の方が受け手として登録されました。そして、以前に受講されていた方が新たに受け手として加わってくださり6名になりました。11月30日2人が見学に来られ、早速電話対応されました。

第1回公開講座 講師 福本由美氏「聴く力で人間関係を豊かに」

人にはフィルターがあることを知る。人間関係を構築するための“聴く”をワークを通して体感する。



このふたつを中心に話されました。人は出来事や状況にその人のフィルターを通して処理をしていく。知識、経験、価値観、信念などでその人なりの解釈や判断をしていく。

コミュニケーションとは、同じものを持つ、考えや気持ちや感情を共有するという。相手固有のフィルターと自分固有のフィルターをいかに歪曲せず反射せず、選択していくか

大切。傾聴は、相手の話をよく聴く、相手を理解する、信頼関係の構築で、聴くことが全ての基本である。向き合う、労う、ほめる、感謝する、相づち、反復、共感する傾聴は人間関係を円滑にしてくれる。

ロールプレイを交えながらのお話でした。傾聴、人の話を聴くということはやはり難しいものです。頭で理解できても心が納得いかなかったり、腑に落ちなかったり、揺れながら迷いながら悩みながら、それでもひたすら聴いていくしかないと感じました。

<感想>

・傾聴は本当に奥深く難しいと思いましたが、今後も学んでいきたいと思いました。自分の思い込みや勝手な判断で聴いていたことを反省しました。

・ロールプレイを通して聴くだけでなく、共感し理解して対応するのが難しいと思いました。電話での対応は声だけの印象になるので、話すことの学びも必要だと思いました。



「子どもをどうとらえるか⑤不登校の子どもの現状」



今回初めて、フリースクールを運営されている方、当事者であったが今はスタッフの方を講師として呼びました。

<感想>

・いい出会いがあって夢を持てることで、前に進めているというすごく前向きに生きていく姿が頼もしかったです。自分の経験から子どもたちをサポートすることに力を注がれて素晴らしいなと思いました。私に何が出来るだろうかと考えながら人と接していきたいなと思いました。
・大人になってすっかり忘れてしまっていた青年期の自分自身がよみがえり、確かにそうだったなあと思い出した次第です。とてもたくさんの方を教えて頂きました。お礼申し上げます。

中四国エリア 1週間 24時間キャンペーン

2021年全国キャンペーンの取り組みの中で、中四国エリアは11月20日から27日の1週間24時間キャンペーンを行うこととなりました。

ハートコール・えひめも、10月にキャンペーンカードを愛媛県内小・中・高校に145,000枚配布し、20日・21日・25日の3日間、16時から22時まで参加しました。

受け手のための継続研修



12月と1月の継続研修はズーム講演会です。

- 1) 2021年12月18日(土) 13時~15時
石井志昂氏(不登校新聞の編集長)
- 2) 2022年1月15日(土) 10時~12時
伊藤次郎氏(OVA代表、ソーシャルワーカー精神保健福祉士、
若者の自死を防ぐための夜回りなど支援の行動を起こす方)



ハートコール・えひめの20年 パート4

今回も少々硬いかもかもしれません。パート2でありました「自立援助ホーム」について書いてみます。

電話で子どもたちの声を聴きながら、心の居場所の大切さと同時に、実際に居られる居場所についても考えさせられるようになりました。何かできることはないかと、NPO サポートセンターのお力をかり、地域の子どもにかかわっている団体に呼びかけ 2008 年より「子どもシェルター・子どもオンブズ勉強会」を開催しました。子どもの状況を探り、全国のシェルターやオンブズパーソンの情報を収集し、何を指すか、何が必要か話し合いました。

松山市わかあゆ教室（適応指導教室）・児童養護施設・フリースクール・児童館を訪ね、広島で開催の日本子ども虐待防止学会にも行きました。児童相談所の職員さんや、弁護士さんの話も聞きました。

厳しい意見もたくさんありました。多くのネットワーク、核となる人、支援、場所などが必要であり、そもそもそんなものを必要とする子がこの地域にいるのかと。課題は山積みです。

そんな中、勉強会で DVD「自立援助ホーム憩いの家 40 年の歩み」を観ました。40 年も前から居場所のない子どもたちとともに生活し、自立に向けて支援をする人たち、感動でした。愛媛県の「えひめ未来子育てプラン」の中に自立援助ホーム設立予定とはっきり明記してあることも知りました。

2009 年には山口県と九州の 3 か所の自立援助ホームを見学に行き（てんやわんやの珍道中でした）、「自立援助ホームを考える会」（勉強会の名を変えました）を開催し、県政出前講座を利用し県子育て支援課担当の方のお話も聞きました。会には、大学準教授、弁護士、児童養護施設職員、心療内科医と様々な方が参加してくださいました。

2010 年に「自立援助ホーム設立準備会」と再び名を変え、愛媛で初めての自立援助ホームに向け動き始めました。団体は法人格を取り「NPO 法人愛媛県子ども自立支援センター」とし、その年の 10 月に岡山の子どもシェルターモモの理事長を招き、設立総会を開催しました。やっと 2011 年自立援助ホーム「ウイング」を開設運営することができました。ここまで 3 年の月日が経っています。この後も想像以上の様々な困難があり、打ちひしがれることがたくさんありました。しかし、何らかの事情で親とは暮らせない子、施設退所後に行き場のない子とともに、生きていくことは何か面白いと感じたくて、突き進んでいきました（きっとまわりで大迷惑をかけたことと思います）。

今現在は「ウイング」を離れています（やはりあまりに自分には負担が大きすぎ、有償スタッフの方に引き継ぎました）。長くなりましたが、まだまだハートコールは続きます。どうぞお付き合いください。



20 周年記念にお花をいただきました。
ありがとうございました。

編 集 後 記

嬉しいことに少しずつですが日常が戻ってきているような気がします。こんな世界的な状況になることなど誰が想像したでしょうか。このことは私たち人間に何を訴えているのでしょうか。何か警鐘を鳴らされているような気がします。世界中いつでもどこでも短時間に行けることは便利で快適ですが、ウイルスも世界中いつでもどこでも短時間に感染拡大するということです。便利で快適な生活はもう元には戻せませんが、少し立ち止まることも必要かもしれません。私に何ができるわけではありませんが、ちょっとだけ考えさせられてしまいます。来年はどんな年になるのでしょうか。穏やかな年でありますようにと祈らずにはいられません。(染)



いっしょがんばっているあなたへ
089-917-7797

1歳以上のお子さんやご家族に話を聞いてもらいたいときにかける電話です。

毎月5と0のつく日(5・10・15・20・25・30日)午後4時～午後9時
子ども電話「ひげき」 実施団体「チャイルドラインパートナーズ(株)」
<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~heart-cab/>



Merry Christmas and a happy New Year

